大分県病院事業中期事業計画（第四期）取組評価について

令和６年３月１日
大分県病院事業経営改善推進委員会　評価結果

１　全体評価

令和４年度の業況は、収入が 20,848百万円 に対し費用は 20,160百万円 で、純利益は 688百万円（計画値 256百万円）となっている。新型コロナウイルス感染症による受診控え等により減少した入院患者数や外来患者数は前年度と同程度であり、感染症発生以前の患者数には戻っていない。一方で、診療単価がアップしたことに加え、新型コロナ関係の補助金交付を受けたことにより収益黒字を確保できたと考えられる。

ただし、新型コロナの感染症法上の分類は５類に引き下げられたが、現在も感染患者は個室による入院管理が必要であること、そして患者の受診控えも続いていることから、コロナ以前のような病院運営に戻るのは厳しい状況である。今後、収益確保に向けた取組強化や一層の経費の削減に努めるとともに、引き続き地域医療の要として、より高度な医療の実践に向けて取組を進めることを期待する。

２　個別評価

	病院局自己評価				委員会評価				コメント
大項目					S	A	B	C	「S」：小項目の評価全てがⅡ以上かつⅠが1項目以上 「A」：小項目の評価全てがⅢ以上かつⅡが2項目以上 「B」：小項目の評価でⅣが1項目以内 「C」：小項目の評価でⅣが2項目以上
小項目	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	「Ⅰ」：特筆すべき進捗状況にある。 「Ⅱ」：良好な実施状況にある。 「Ⅲ」：概ね年度計画どおり実施している。 「Ⅳ」：計画までの実施ができなかった。
１　地域医療構想を踏まえた役割の明確化					(S)	A	B	C	
高度急性期、急性期医療機能の担い手として、地域の医療機関等との連携を図り、紹介・逆紹介を推進し、患者の早期の在宅復帰を目指し、入院時から退院支援に力を入れる。									
１）紹介率、逆紹介率の向上 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 紹介率　83.4%　94.2% ↑ 逆紹介率　121.1%　142.0% ↑	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	目標に対して紹介率は10.8ポイント、逆紹介率は20.9ポイント上回っており、特筆すべき状況にある。
２）地域医療機関等の連携 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 診療情報提供料等を算定する割合　40.0%　43.1% ↑	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	目標を3.1ポイント上回っており、良好な実施状況にある。
３）在宅復帰の推進 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 在宅復帰率　80.0%　90.7% ↑	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	(Ⅰ)	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	目標を10.7ポイント上回っており、特筆すべき状況にある。
２　経営の効率化					S	(A)	B	C	
医療の質の向上等による収入の確保や薬品費や医療材料費等の経費の節減に積極的に取り組む。									
１）急性期医療の重点化 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 一日あたり入院患者数　461.1人　414.2人 ↓ 一日あたり新外来患者数　81.6人　72.5人 ↓ 平均在院日数　11.5日　11.3日 ↑ 病床利用率　86.5%　76.7% ↓ 入院診療単価　74,432円　80,203円 ↑ 外来診療単価　27,777円　29,988円 ↑ 看護必要度　28.0%　32.7% ↑ 診療情報提供料等を算定する割合　40.0%　43.1% 再掲 在宅復帰率　80.0%　90.7% 再掲	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	(Ⅲ)	Ⅳ	「一日当たりの入院患者数」「一日あたり新外来患者数」及び「病床利用率」は目標を下回ったものの、単価をはじめその他の項目は目標を上回っており、概ね計画どおり実施できている。
２）ＤＰＣ分析による経営戦略の強化 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 平均在院日数　11.5日　11.3日 ↑	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	目標より0.2日短縮されており、良好な実施状況にある。
３）診療報酬制度への戦略的な取組 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 医業収支比率　98.9%　97.2% ↓ 経常収支比率　101.3%　103.4% ↑ 現金保有残高　7,426百万円　8,351百万円 ↑ ※有価証券（譲渡性預金）含む。	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	経常収支比率、現金保有残高は目標を上回っており、良好な実施状況にある。
４）費用削減への取組 プラン上の目標指標 ４年度　目標値　実績値 材料費対医業収益比率　34.1%　33.8% ↑	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	(Ⅱ)	Ⅲ	Ⅳ	物価高の影響を受けたものの目標を0.3ポイント上回り、良好な実施状況にある。